

はじめに

フランス城郭シリーズ 7 でルイ 14 世と城郭建設技術者ヴォーバンを紹介したが、**ヴォーバン式要塞**と呼ばれている**陵堡式要塞技術**に関しては、「周辺国での要塞技術や武器技術の進歩」に関する筆者の勉強不足の為に、読者には理解が困難だったと反省しており、後日改めて補足版を投稿します。今回は当初の計画に戻り、ルイ 14 世の曾孫のルイ 15 世、その孫の 16 世の時代のパリの**徴税請負人の壁**を紹介する。徴税請負人の壁は、以前の城壁と異なり、外部の敵からの防御ではなく、「郊外から市内に向かう商品に通過税を課する事を目的」にしており、パリ市民の不信と不満を募らせる事になり、革命の原因の一つになった。

1. 時代背景

- ① **16 世紀**のヨーロッパの周辺国では**宗教改革**が起こり、ローマカトリック教会から離脱したプロテスタントの教会が誕生し始めた。プロテスタントとは、16 世紀の宗教改革の精神に従った改革の中で、神聖ローマ帝国の議会議決で「**ローマカトリック教会の指導に抗議する者**」という意味で使われ始めた。フランスでも国王**アンリ 4 世**が**ナントの勅令**でプロテスタントの**ユグノー**を認めたが、**ルイ 14 世**が「ナントの勅令を取り消す勅令」を発令してカトリックに逆戻りし、国民の不満が高まった。

**注：**プロテスタントとは宗派ではなく、西欧のローマカトリック世界だけで分裂した人たちで、宗派としては沢山ある。

キリスト教 でも、東方正教（ギリシア、ロシア、アルメニア、ブルガリア、など）には宗教改革はなく、プロテスタントもいない。

② **太陽王ルイ 14 世とヴェルサイユ宮殿**

|      |  |
|------|--|
| 1643 | <b>ルイ 13 世没、ルイ 14 世即位</b> (b1638-a1643-1661 親政開始-d1715)      |
| 1682 | 宮廷を <b>ヴェルサイユ宮殿</b> に移転し、太陽王ルイ 14 世による絶対王政を完成した              |
| 1685 | アンリ 4 世による <b>ナントの勅令</b> でフランス・ユグノーの権利を容認したが、ルイ 14 世はこれを廃止した |
| 1702 | 英・蘭・奥が仏に宣戦   |



図 1 ルイ 14 世



図 2 ヴェルサイユ宮殿

- ③ **15～16 世紀**の大航海時代を経て、アフリカ、アジアおよび南北アメリカに**植民地**を持ち**奴隷貿易**を伴い、例えばヨーロッパで戦争が始まると、アメリカの植民地同士でも戦うなど、広域に拡大して、国家レベルでは経費が増大してきた。また、ペストなどの疫病も広域に蔓延し、市民と貴族の格差拡大から内乱や革命への戦いが多発する時代になってきた。こうして、国民の間には不満が増大していた。なお、奴隷貿易については、20 年 4 月に「最後のイギリス旅行 その 2、リパールと奴隷産業」で KPC に投稿し詳しく説明した。

|      |  |
|------|--|
| 1702 | 英・蘭・墺が仏に宣戦   |
| 1715 | ルイ 14 世没、曾孫が <b>15 世が 5 歳で即位</b> し、オルレアン公フィリップ II が 8 年間摂政                     |
| 1723 | オルレアン公フィリップ II 没、ルイ 15 世 (b1710-a1723-d1774) <b>13 歳で親政開始</b>                  |
| 1744 | 仏、英に宣戦布告、北米植民地で <b>ジョージ王戦争</b> 始まる 英王 <b>George II 世</b> (b1727-d60)           |
| 1759 | 英軍、ケベックを占領   |
| 1760 | モントリオール、英軍に降伏、英カナダを征服  |
| 1763 | パリ条約、英、仏・西と講和、仏カナダ・ルイジアナ・セネガルを失う   |
| 1768 | 仏、コルシカをジェノヴァから購入   |
| 1774 | ルイ 15 世没、 <b>ルイ 16 世</b> (b1754-a 即位 1774- <b>廃位</b> 1792-e <b>処刑</b> 1793) 即位 |
| 1783 | ヴェルサイユ条約、米独立戦争終結、アメリカ合衆国の成立  |



## 2. 徴税請負人

① フェルミエール・ジェネロー-Fermiers généraux の壁とは、「徴税請負人」を意味する「Fermier général」の複数形で、この壁はその名が示す通り「パリに入城する商人たちからの徴税」を目的として建設された。1789 年のフランス革命直前に建設され、パリを取り囲んでいた壁のうちの一つである。次回のテーマである**ティエールの城壁**内のコミュニオンがパリに併合された 1860 年の「パリ改造」で解体された。

② 1782 年、徴税請負人達は、ルイ 16 世に対して、首都パリ市民が消費する物品の関税を独占的に徴収するための場所を伴った、新たな壁でパリを取り囲むことを提案した。この税金は「Octroi」と呼ばれてローマ時代にも郊外から市に流入する物品にかけられた事があった。この提案は承認され、1784 年から 1791 年にかけて徴税請負人の協働によって建設された。城壁のところどころに設けられた通路は、関税徴収所 (barrière) と呼ばれた。ほとんどの関税徴収所が、入市税関事務所を備えており、新古典主義または古典主義のスタイルで設計された。

3. 徴税請負人の壁 (＝フェルミー・ジェネロー-Fermiers généraux の壁)

図4の通り、徴税請負人の壁は、徴税事務所を備えた56の門と、高さ4~5mで長さ25kmの壁で構成されている。

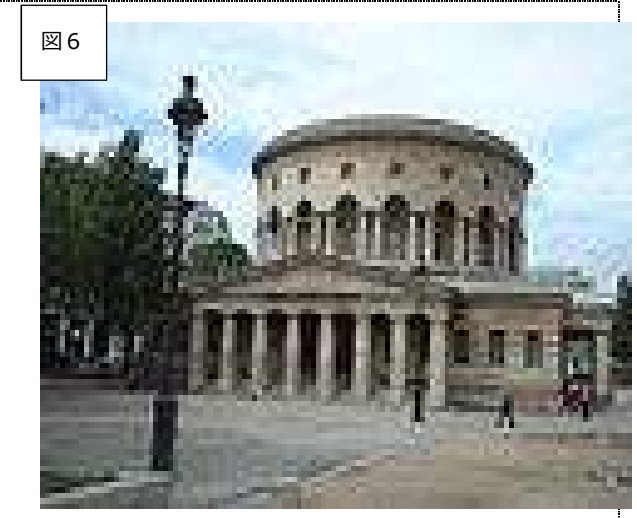
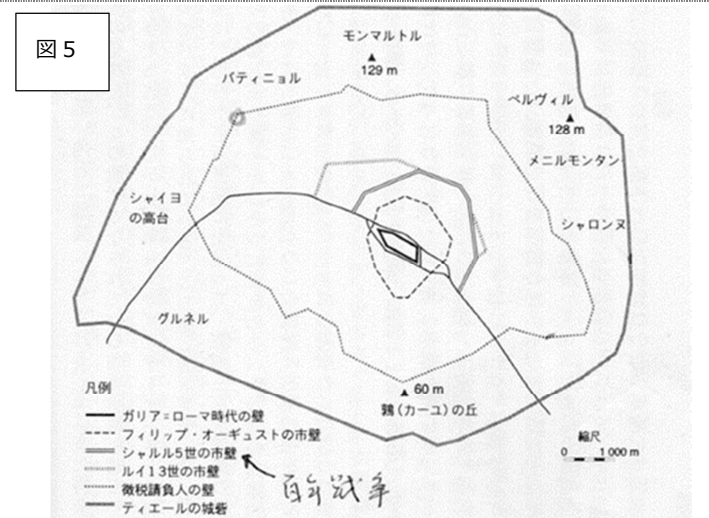
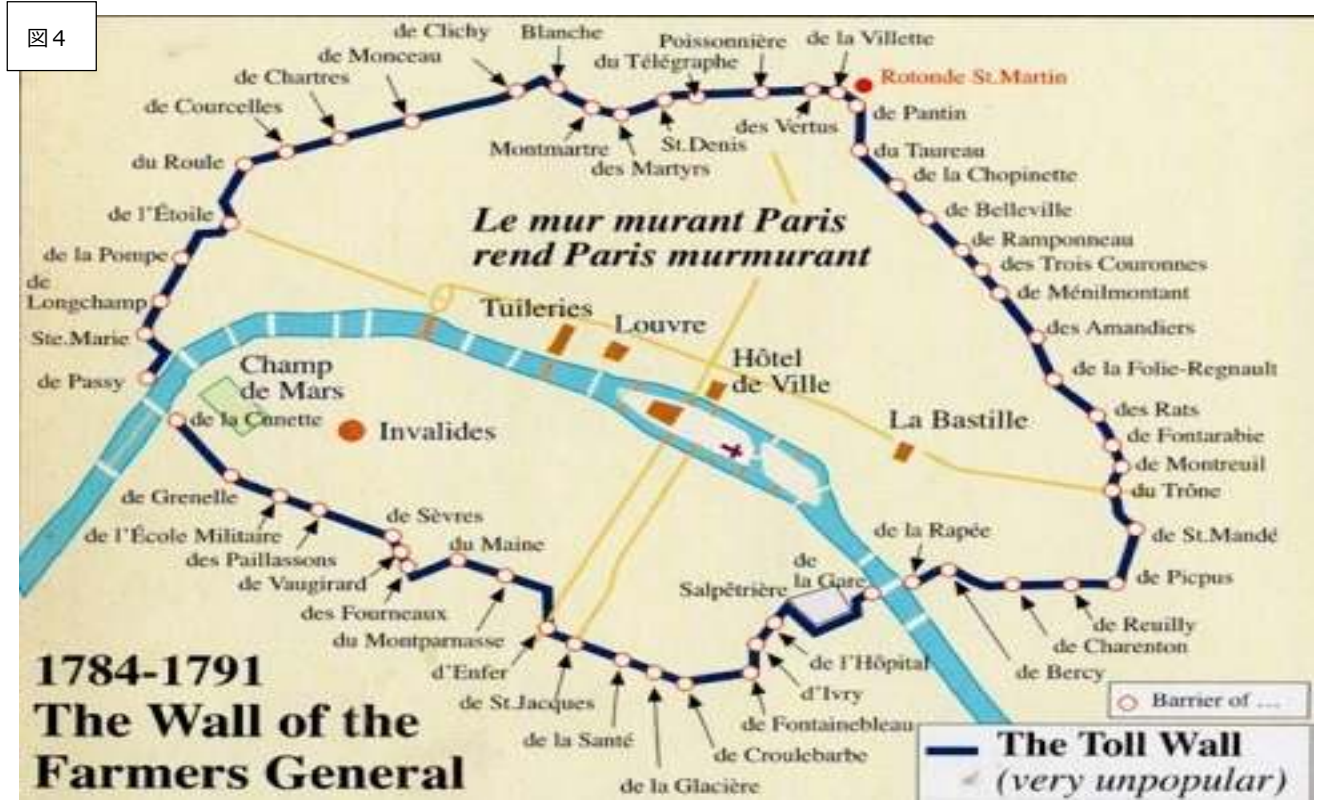
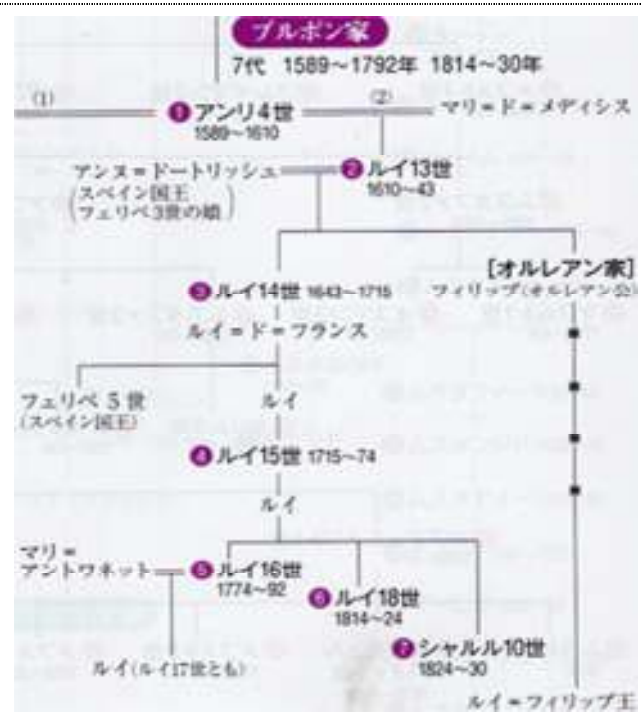


図4の右上に赤字で、Rotonde St.Martinと記載されているのは、現存する徴税事務所であり、図6に写真を掲載。図5は、シリーズで紹介してきた、パリの6つの市壁・城壁で、シリーズ1の図1として掲載した。

|      |  |
|------|--|
| 1784 | ～91、徴税請負人の市壁建設                             |
| 1789 | 7月バスチーユ要塞襲撃、農民一揆全国に拡大、ヴェルサイユ行進、国王一家をパリに連行  |
| 1791 | 国王一家は、王妃マリー・アントワネットの実家オーストリアを目指して逃亡したが失敗した |
| 1792 | 民衆、チュイルリ宮襲撃、王政廃止宣言、第1共和政、                  |
| 1793 | ルイ16世処刑、@ コンコルド広場                          |
| 1804 | ナポレオン1世皇帝に就任(第一帝政成立)                       |
| 1830 | 7月革命で七月王政(オルレアン朝)成立(～48)、                  |
| 1841 | ティエールの市壁建設開始(～45) パリの最後の環状市壁であり次回説明する      |
| 1860 | パリ改造計画で、徴税請負人の市壁もティエールを含むパリの全ての市壁が解体された。   |

#### 4. ブルボン朝

① 近世フランス王国の王朝で、1589年から1792年まで、一時中断を挟んで1814年から1830年まで続いた。今回は、ルイ14世からフランス革命で処刑されたルイ16世の時代が中心になる。



上図は、1789年7月14日の民衆によるバスチーユ要塞襲撃である。

バスチーユ要塞の建設に関しては、フランス城郭シリーズ6「シャルル5世の城壁追加版」で詳しく説明した。

ルイ16世と王妃マリ=アントワネットの墓所はパリの北隣のサンドニ聖堂にあり、本シリーズ5「ルイ13世の城壁」に付録として写真を掲載済みである。

左図は、コンコルド広場の処刑場のギロチンでルイ16世夫妻もここで処刑された。

5. パレ・ロワイヤル PALAIS ROYAL : ルイ13世の宰相リシュリユーの城館パレ・カルディナル (Palais-Cardinal) だったが、その死後に主君へ寄贈された。ルイ13世の死後、1643年に当時5歳のルイ14世がルーヴル宮殿から移り住んだこと

